

(様式1)

[自己評価報告書等提出届]

学校番号 (38)

令和3年2月20日

区・教育担当 担当課長 様

川崎市立 荇宿小 学校

学 校 長 志田 雅弘 印

自己評価報告書等提出届

学校評価に係わる自己評価報告書等の提出をいたします。

1. 自己評価報告書

(学校関係者評価含む)

2. 自己評価報告書等の学校評価の公表方法

※ 該当箇所に○をつけてください。(複数回答あり)	
(1) 学校だより等 (各家庭配付)	
(2) HP (学校ホームページ)	○
(3) 学校報告会 / 学校説明会	
(4) 学校教育推進会議 / 学校運営協議会	○
(5) P T A総会・役員会・運営委員会 等	
(6) 地域(自治会・町内会)への回覧や掲示板	
(7) その他	

(様式2)

令和2年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
38	川崎市立荻宿小学校	志田 雅弘

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、判断し、行動する子 (知:知力の育成) ・心やさしく、他者を理解する子 (徳:社会性の育成) ・心も体も健康に生活する子 (体:心身の育成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールの地域力を生かし共に活動する場を通じて人間関係の基礎作りを進める。 ・総括教諭やそれに準ずる教諭が学校経営の中心を担い、若手職員の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼される学校につながるよう各組織が連携を密にし、主体的な計画と実践を行う。 ・学年経営の充実を目指し、学年会議を通して教員相互で考えを出し合い学びあう授業づくりに生かす。

評価項目	具体的な取組	成果や課題	具体的な改善策
1 基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな指導による「わかる授業」を目指した展開を実践する。 ・効果的な家庭学習(宿題)を通じ、学習内容の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題の提示により子どもに授業の見通しを持たせたり、温かな話し方で授業を進めるなど安心して取り組めるように意識してきた。 ・昼にモジュールの時間(低中学年は国語の話す聞く題材を、高学年は英語。週当たり15分×3回)を設定し、継続的な取り組みが有効であることが認識できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュールによる学習の取り組みは継続することによる力の蓄積が見られ、これからも国語と英語を続けていながら様子を見ていきたい。 ・特に算数や国語においては反復の学習が基礎基本の定着につながるため、定着の一つの方法として家庭学習(宿題)を大切に進めていきたい。
2 学習への主体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・主に「生活科」や「総合的な学習の時間」などを通じて探究的な学習に取り組み、子どもの主体性の伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自ら調べたいような課題の提示や疑問を解決したくなるような授業を続けることを通じて主体的に解決しよう、学ぼうとする姿が様々なところでみられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力を身に着けるうえで「主体的」に学習するという姿勢は大きな要素を占めている。子どもたちのもっている好奇心をくすぐらせるような学習課題の提示に今後も取り組んでいきたい。
3 外国語(英語)教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・英語や外国語の文化等に興味を持てるよう、親しみの感じられる展開を実践する。 ・4年目の外国語教育推進校となり、個々の教員が研究に対する意識を高め、互いに刺激しながら授業力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「できた！、わかった！」という思いが外国語(英語)の授業の中の随所にみられ、興味の深まっていく様子を感じることができた。 ・研究推進校となり、全学年が英語の学習に取り組んだ。担任がT1として英語の学習をリードできていることは大きな成果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語での会話では子どもの声はまだ小さい。恥ずかしさがあるのかもしれないが発言については自信のもてるよう全ての教科を通じて取り組んでいきたい。 ・英語の学習に積極的に取り組んでいる子どもが多い。しかし学校から家庭への情報発信が少なく、今後は家庭でも話題にあがるよう情報の発信を進めていきたい。親子で英語を学べる場の設定など工夫したい。
4 自分の役割を自覚し行動に移すことへの取り組み(学校行事・係り活動・当番活動・クラブ・委員会活動など)	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動を通して、年齢を超えた仲間づくりを進めている。 ・係り活動、クラブ、委員会活動では子どもの自主的な活動につながるよう見守り支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動では、異学年の子どもとの交流を通じて人間関係の土台づくりにつながっている。上級生は上級生として下級生は下級生としての役割、行動がとれている。 ・係り活動やクラブの立ち上げなど子どもの自主的な活動の様子が多く見られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動は6年生のリーダーとしての土台作りの意味でも充実した時間としていきたい。 ・子どもが自分の役割を自覚し行動できるよう、今後も様々な場面を通して褒めることを中心とした支援をしていきたい。

5	関わりあう活動を通しての友達関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> 各学級とも道徳や共生共育の時間を有効にした指導を進め、良好な友達関係が築けるように取り組んでいる。 特にいじめのない友達関係づくりに努め、気になる言動などには素早く対応するなどいじめ防止に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童支援コーディネーターが各クラスを巡回し子どもたちの関係を素早くキャッチしてきた。また必要に応じて、個々に聞き取りをしながら子どもたちの関係の修復を図った。 相手が「いやだな」と感じたらそれはいじめです、という共通のスタンスで、教職員一丸となっていじめ防止に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめについては、教職員がアンテナをはって今後も早期発見早期対応に全力で取り組んでいく。 子どもは様々な困り感をもっており、個に応じた対応が必要である。これからも子どもが安心して学校生活を送れるよう児童支援コーディネーターを中心としたチームで取り組んでいきたい。
6	読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 国語を中心とした読書活動に加え、学校司書や図書ボランティア(ヨムヨム)と協力し、読書に親しめるような活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書に親しむ子どもとそうではない子どもの二極化が見られている。読書の啓発、図書室の積極的な活用など本との距離感を縮めていく必要性が感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ヨムヨムさん、大型紙芝居のボランティアさん、学校司書さんとの連携もさらに図りながら読書の楽しさや図書資料の有用性を益々子どもに伝えていきたい。辞書の活用など調べる活動を効果的に取り組んでいきたい。
7	教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童支援コーディネーターおよび担任が子どもに寄り添い、困ったことがあった時には相談しやすい雰囲気をつくって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談しやすい雰囲気作りはできているが、相談ができない子どもも一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談されるのを待つだけではなく、子どもの様子をよく観察し悩みや困りごとが深刻化する前に声をかけて聞き取っていけるよう取り組んでいきたい。また定期的な面談や聞き取りも実施していきたい。
8	学校生活のルールや決まりを守る意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 「苺宿小のきまり」をもとに学校生活をおくるうえでのルールやきまりごとを守って生活していくよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールや決まりを守って学校生活をおくっている子どもたちの姿に感心させられることが多い。ご家庭での愛情深い家庭教育の賜物である。 	<ul style="list-style-type: none"> 良い悪いなどの判断が的確でけじめのある学校生活ぶりである。今後も意識を醸成していけるよう取り組んでいきたい。
9	安全・安心の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域の方と協力をして子どもの安全対策(避難、防犯など定期的に行う学校での訓練、保護者や地域の方による安全パトロール、不審者情報等のメール配信)に努め、身の安全の処し方についての定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSが社会問題となっている今日、スマホの使い方などの情報モラルに関する授業を4年生以上に実施した。また地震火災などに対する避難訓練や不審者の侵入に対する防犯訓練も全校児童対象に実施した。 保護者、地域の方による登下校時の安全パトロールを継続しており、気になる点などの意見や感想などを取り入れる体制を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の中で防げるケガが多くある。階段や廊下などの曲りで出合い頭の衝突を防ぐための工夫が功を奏している。 地震に対応した防災訓練としてシェイクアウト訓練を定期的に行った。「自分の身は自分で守る」という意味合いからも今後も継続していきたい。
10	勤務時間や健康管理を意識した働き方の推進	<ul style="list-style-type: none"> 仕事を進める上において、絶対に取り組まなければならないと思っている「思い込みの仕事」はないか、今一度意識しながら日々の仕事を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月からの学校再開ということもあり、学校行事や学年行事などの内容を改めて見直す機会が得られたことが大きな成果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容の精選など、意識の改革にはつながったことと思われる。働き方、仕事の進め方という点で今後も「思い込み」にとらわれない視点を大切にしていきたい。
学校関係者の評価		今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて		
<ul style="list-style-type: none"> 毎年、授業の参観を通じて思うことであるが、どのクラスも子どもが落ち着いて真面目に取り組んでいるところが本当に素晴らしい。 英語の研究校らしく階段や廊下などに英語の表記が多くみられ学習の深まりを感じることができた。 「おはようございます」「さようなら」など、子どもは気持ちの良い挨拶をしてくれており、地域の私たちが元気をもらっている。 コミュニティスクールの良さを生かして、地域や保護者も学べる場としての学校づくりをこれからも進めていただきたい。 防災防犯訓練を、学校を中心にして地域がらみで行えないか模索している。 		<ul style="list-style-type: none"> 臨時休業があけた6月、子どもが元気な姿で登校できたことを嬉しく感じ、改めて、当たり前と感じていたこれまでの日々大切さを痛感させられた令和2年度であった。感染防止対策を講じながらの学校生活、学校行事は子どもにとって窮屈であり残念なこともあったであろう。先の見えないコロナ禍、今しばらくは辛抱であるが子どもの健康そして安全の保持を次年度も最優先に考えていきたい。また子どもの学校生活への思いに応えられるよう学校運営に取り組んでいきたい。 苺宿小は、総括教諭やサブリーダーの職員を中心にして学校運営を進めることができている。また職員の年齢や経験年数に関係なく、個々のもっている力に応じて自分に課せられた様々な役割を一生懸命に取り組むことができている。働き方改革、仕事の進め方改革も切り口に加え、これからは職員一人ひとりが自信をもって教育という職務にまい進できるよう校長として指導、助言をしていきたいところである。 		